



第3章 研究のまとめ

研究のまとめ

1 成果と今後に向けて

(1) 成果

本校では、これまでの実践研究の成果を踏まえ「生涯学習力」を高めるための授業実践に取り組んだ。今までの授業と「生涯学習力」を高めるために「わかはとモデル」を意識して授業をすることで、指導方法として何が違い、教師の意識は何が変わったか。授業づくりの視点と児童生徒の変容、教師の関わり方の変化の3つに分けてまとめる。

①「生涯学習力」を高める授業づくり

「わかはとモデル」を活用しながら、つながりミーティングを通して各学部のつながりを考え、授業づくりに取り組むことができた。学部ごとに授業づくりを進めてきたが、「わかはとモデル」の要素を活用したことで、自分の学部外の授業を参観した場合でも、どの要素を高めようとしているか、共通理解が得られたり、学部を越えたつながりについて考えたりすることができた。

<小学部>

発達段階が多様な子どもたちに対しても学級ごとに工夫すること、経験を重視すること、継続して取り組むこと、そしてエンジョイタイムならこういう題材も可能かもしれないと余暇につながるアイデアを出し合いながら進めることができた。

<中学部>

自分たちが考えた通りにならない場面で試行錯誤する、生徒に任せる場面を増やす、ペアや集団での学びを意図的に設定するなど、生徒同士で解決したり、解決方法を考えたりしながら授業を進めることができた。

<高等部>

地域社会とつながる、学び続けていくための基盤となる力を育むなど、卒業後の学びを見据えた授業づくりを進めることができた。

「生涯学習力」を高める授業づくり



【中2 ピザ7~中1と交流会をしよう~】
中1の生徒にピザの作り方を教えている場面

②児童生徒の変容

<小学部>

エンジョイタイムの時間を楽しみにする児童が増え、今度はどんな新しいことをするのか興味・関心を示したり、やってみようとしたり、新しいことに取り組むことへのハードルが下がり、じっくりとモノに関わるようになった。

<中学部>

仲間と一緒に課題を解決できると楽しい、一人では難しいけれど仲間とやったらできた、分からないことは調べるなど仲間とチャレンジする姿がたくさん見られるようになった。

<高等部>

失敗を恐れずに行動に移す姿、人に聞き、タブレット端末を使って情報を収集し、その中から必要なことを選んで実行する姿が見られるようになった。

児童生徒の変容



【高等部Dスタディ】
自分たちが調べた行きたい場所へ電車で向かう場面

③教師の関わり方の変容

<小学部>

児童が「ヒト・モノ・コト」へどのように関わっているのかという視点で児童を観察することで、児童が今何を楽しんでいるのか、児童の興味・関心への理解が深まった。「わかはとモデル」の視点で評価することで、将来の姿につながる一連の流れの中で、児童の姿を観察できるようになった。

<中学部>

生徒同士で考えることができるように、見守る支援、生徒の発信を待つ、できるだけ必要最小限のアドバイスをし、失敗してもよいというスタンスで支援をするように変わった。

<高等部>

課題を考える視点を明確化し、集団と個で考える場面を設定、教師が「どのように」「どんな」などを意識した問いかけをすることで、生徒が自分なりの問題の解決方法を考えられるように支援をするようになった。

このように、「生涯学習力」を高める授業づくりに取り組んできたことで、児童生徒は「ヒト・モノ・コト」を試したり、好奇心をもって触れる経験をしたりしながら学びを積み重ねることができた。また、成功体験を通して「もっとやりたい」「楽しい」と感じたり、失敗をしても「どうしたうまくいかないのかな」「次はどうしよう」などと試行錯誤をする、情報を集めるなどしながらよりよい解決方法を児童生徒同士が考えたりすることにつながった。その際、教師が提示するのではなく、寄り添うようなスタンスで支援し、児童生徒の主体性に任せることで、自分たちで何とかしなければいけないと考え、行動に移すように変わり、授業のスタイルそのものが変わってきたように思う。

(2) 今後に向けて

本校は、「私の応援計画」の児童生徒の思いや願いを大切に、「わかはとモデル」を活用して単元構想や授業づくりを行ってきた。時には児童生徒のつづやきから授業が発展し、教師が思い描く以上の授業に発展をしていくこともあった。これは、学びの主体が子どもであり、教師が教え込むのではなく、一緒に学んでいこうとする姿勢があつてこそ成り立つように考える。将来は自分の「生涯学習力」を発揮し、学び続ける児童生徒を育てていくことを目指し、そのために「今」できることを考えて指導・支援をしてきた。「今」の実践をすることで児童生徒の「将来」がどのように変わっているのかまだ具体的に分かるものではないが、学校生活の中の「今」と「将来」を職員が見据え、さらには卒業後の「将来」をつなぐことができるような授業実践が必要と考える。「私の応援計画」と「わかはとモデル」をうまく組み合わせることで、より「生涯学習力」を意識した授業につながるのではないかと考える。

新しい時代で学び続ける児童生徒を育て、本校では今後も児童生徒一人一人の実態やニーズ等に応じて、生涯にわたって「学び続ける人」を育むための授業実践を積み重ねていく必要がある。そのためには、教師自らの「生涯学習力」を高めるために学び続ける存在でありたい。

「生涯学習力」を高める授業づくり



【エンジョイタイム】
お花を摘んでレジンの飾りを作る学習



第33回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会秋田大会
令和4年度秋田大学教育文化学部附属特別支援学校公開研究協議会

「体験と熟議が生み出すつながりの場 ～秋田県生涯学習センターの障害者の生涯学習への挑戦～」

秋田県生涯学習センター 副主幹(兼)学習事業班長 柏木 睦 様

第33回 日本教育大学協会 秋田大会
全国特別支援教育研究部門合同研究集会

秋田県生涯学習センター 副主幹(兼)学習事業班長 ①
柏木 睦 氏

体験と熟議が生み出す **つながりの場**

高齢者の 自己学習 ×
学校教育 家庭教育 自己学習
「あきたスマートカレッジ」
「障害者スポーツスペース」
「思いを形にした場」

生涯学習
カウチの 社会教育は学校以外 ×
声と結
「知ろう!」「体験しよう!」
「障がい者スポーツスペース」
「思いを形にした場」

つながる場 相互教育 → 体験・熟議
経験おこころ 想像することできる

「あきたWith」
ゆるやかなネットワーク、支援の「協働」成長続き

「結」
スポーツ交流会 **友達、友達はみんな友達。**

楽「防災」考
しなやかに えよう!

防災 + 食 ... → 必要感, 満足感のある学び

楽 結
「障がいがある方とない方が一緒に学ぶための仕掛け。」
「楽しい学びの場」

熟議とは?
いろいろな立場の人で、テーマについて自分の思いを話し、共通の目的に向けて自由に何ができるかを考える。
自分は何ができるかを考える

特別支援学校でこそ

「熟議」が必要!!
中心は子供たち
当事者と様々な人

Q お子さん生涯学習を続けていくとは?
特になし 38.8%
全国
・スポーツ
・余暇
・学校と学ぶ内容

Q お子さん生涯学習を続けていくとは?
特になし 50.1%
秋田

トイ・着替えに困る・周囲の理解
交通手段がない・情報がない
バリア



③

車いすで街歩き 言葉のバリアフリー
 少しの段差でも ガタガタ 行動のバリアフリー

体験から出せる言葉

街歩きイベント
 アルバ
 イクバ・イクバ

経験することで 想像することもできる

見目の大事な物もある!

場を作ることの大切さ
 !----> 場所・話す機会・必要感

仲間や味方は必ず見つける。

自分の限界も知る。

在学時から社会のつながり。

2022.11.19
 障害者の生涯学習





第33回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会秋田大会
令和4年度秋田大学教育文化学部附属特別支援学校公開研究協議会

「生涯にわたって学び続けていく力を育むキャリア教育

—いまの学びと将来をつなぐ『対話』の意義と実際—

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 教授 菊地 一文 様

記念講演
生涯にわたって
学び続けていく
力を育むキャリア教育
—いまの学びと将来をつなぐ『対話』の意義と実際—

弘前大学大学院
教育学研究科
教職実践専攻
教授 菊地一文氏

**① 学習指導要領における
キャリア教育の位置づけ**

成果
地域協働活動
授業課程改善

内面の育ちへの注
方向性
資質能力
主体的に学ぶ力
やみません!と思える力

どのように学ぶか?
深い
対話的 / 対話を重視
主体的

3つの柱
学級経営 生徒指導 キャリア教育

昨日の公開授業のふりかえり

目的見通し
具体的説明

問いかけ
見る聞く
成しげよう!
言葉かけ

教師
学部
中学部
高等部

どう判断、解決するか
共感
後押し
言葉で説明する
はにかむ

キャリア教育とは

- 社会的・職業的自立のため
- 基盤となる能力を育て
- キャリア発達を促す

社会の中で
自分の役割を果たし
自分らしい生き方を実現する過程

子どもをよく促さないと
気づけない!!

PATH TEM などの7-クが有効

⑤ 障害の重い児童生徒のキャリア教育

困難さ
可能性
本人
教師
他者

丁寧に
見る
言葉にする

CTも活用

受け手効果
開き手効果

年級による役割
相互作用の中で変化する
「学ぶ」が大きい役割となる
ライクキャリアの虹
学校:遊ぶの役割を大きい

**② 主体的・対話的で深い学び
とキャリア発達支援**

学ぶのは
本人!!

- 何のために?
- 他者とのつながり
- 学びの過程



対話的な学び

ICT活用

生徒同士で

教師が言葉化

問われて応じる経験

分からない時 目かけも求める

会話のちがい

- ☑ 相手に分かってもらいたいという気持ち
- ☑ 自己内対話に着目 聞き手の存在
- ☑ 問うことの重要性
- ☑ ふりかえり 熟議
- ☑ 対話促進、具体的方策 情報 整理

深い学び

⑥

何を学んでほしいのか?

教師

生徒同士で

背景に学びの姿があると気が

個々に起きるもの

毎時間 起きるわけではない

学ぶ側に立つ

教師の共感・肯定

省察による学び

やりたい

なりたい

願い

思いに着目

4つのC

Container

Contents

Context

Competency

カリキュラムマネジメントが必要

各教科内のつながり

各教科間のつながり

具体的に活用場面のお話し

教材・PPTは教科書!

3 共生社会の実現に向けた地域協働活動の推進

⑦

障害者の権利の条約

専門でない人にどう伝えるか?

バス清掃

自分がやったこと 社会に役立てる

異なる人との関わり 自分が変わる

リソースを発見 子どもの活動とつながり

会場からQ&A

ヒト・モノ・コト つながり時の関わり方で大切なものは?

地域 学校

対話が大切

ファシリテーター 社会教育が行うetc.

<参考文献>

- (1) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「ひと・地域・未来をつなぐ」研究紀要第41・42・43集, 2015・2016・2017
- (2) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「本人主体の個別の教育支援計画(私の応援計画)を活用した教育課程の編成」研究紀要第44・45集, 2018・2019
- (3) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「児童生徒の『生涯学習力』を高める教育課程の編成」研究紀要第46・47集, 2020・2021
- (4) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる～学びの積み重ねの実践とゆるやかなネットワークの構築～」研究紀要第48集, 2022
- (5) 亀井浩明(1998) 「生きる力と生涯学習」財団法人全日本社会教育連合会
- (6) 菊地一文(2021) 「知的障害教育における学びをつなぐキャリアデザイン-本人の思いや願いを踏まえた深い学びの実現に向けて-」ジアース教育新社
- (7) 斎藤明(2022) 「特別支援教育研究」2022年10月号 東洋館出版社より一部引用
- (8) 小島道生 片岡美華(2014) 「豊かな自己理解を育むキャリア教育」
- (9) 全国手をつなぐ育成会連合会機関誌(2022年7月号) 「学び続けることの大切さ」
- (10) 文部科学省(1981) 「生涯教育について(答申)」中央教育審議会
- (11) 文部科学省(2010) 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
- (12) 文部科学省(2010) 「特別支援教育の在り方に関する特別委員会 論点整理」
- (13) 文部科学省(2012) 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」
- (14) 文部科学省(2012) 「障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告(第一次まとめ)」
- (15) 文部科学省(2016) 「教育課程企画特別部会 論点整理」
- (16) 文部科学省(2016) 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
- (17) 文部科学省(2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)」
- (18) 文部科学省(2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」
- (19) 文部科学省(2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)」
- (20) 文部科学省(2017) 「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
- (21) 文部科学省(2018) 「学校卒業後における障害者の学びの推進方策について(論点整理)」
- (22) 文部科学省(2018) 「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」
- (23) 文部科学省(2018) 「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策(最終まとめ)」
- (24) 文部科学省(2018) 「第3期教育振興基本計画」
- (25) 文部科学省(2019) 「障害者活躍推進プラン～障害のある人の力を生かして未来を切り開くために必要な5つの政策プラン～」
- (26) 文部科学省(2019) 「障害者の生涯学習の推進方策について(通知)」
- (27) 文部科学省(2019) 「障害者の生涯学習の推進方策について—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—(報告)」
- (28) 文部科学省(2020) 「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」